



目次

- ◆事務局からのお知らせなど..... 1
 - キャンペーン「eBirdでバードウォッチングウィークを楽しもう！」のご報告..... 1
 - 会員数..... 2

- 令和4（2022）年度第2回評議員会（臨時）議事録..... 4
- 令和4（2022）年度第3回理事会（定例）議事録..... 6

◆事務局からのお知らせなど

■自然保護室より

■キャンペーン「eBirdでバードウォッチングウィークを楽しもう！」のご報告

11月1～7日のバードウォッチングウィークにキャンペーン「eBirdでバードウォッチングウィークを楽しもう！」を実施しました。期間中、好きな時にバードウォッチングをして、その結果をeBirdに投稿いただくというもので、全国から246名の参加があり、907件のチェックリストが投稿されました。参加された皆さま、ありがとうございました。

●投稿状況

北海道から沖縄まで全国各地から投稿があり、都道府県別に見ると東京都が161件と最も多く、次いで千葉県、北海道、神奈川県、愛知県の順となりました（表1）。

表1. 都道府県別チェックリスト投稿数ベスト10

	都道府県	チェックリスト数
1	東京都	161
2	千葉県	82
3	北海道	70
4	神奈川県	68
5	愛知県	57
6	埼玉県	48
7	京都府	36
7	沖縄県	36
9	奈良県	33
10	滋賀県	31

●観察された鳥

全国では264種が記録されました。都道府県別に見ると北海道が98種で最も多く、次いで滋賀県96種、宮城県94種、東京都86種、栃木県85種の順となりました（表2）。

記録の多かった種は、ヒヨドリが最も多く、次いでハクセキレイ、カルガモ、ハシブトガラス、スズメの順で、都市部で観察しやすい鳥が中心でしたが、8位にはジョウビタキが入り、10位以内には入らなかったものの、マガモ、コガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、キンクロハジロ、ホシハジロなどのカモ類も多く（チェックリスト数100件以上）報告されました（表3）。この季節に飛来するカモ類に注目してもらえるよう、「観察対象種のカモ3種（マガモ、コガモ、オナガガモ）をすべて観察し、投稿した方に『サントリー特別賞』としたこともあり、水辺でカモ類を観察された方も多かったようです。

表2. 都道府県別観察種数ベスト10

	都道府県	観察種数
1	北海道	98
2	滋賀県	96
3	宮城県	94
4	東京都	86
5	栃木県	85
6	千葉県	83
6	愛知県	83
8	神奈川県	82
8	沖縄県	82
10	奈良県	75

表3. 記録が多かった種ベスト10

	種名	チェックリスト数
1	ヒヨドリ	549

2	ハクセキレイ	382
3	カルガモ	359
4	ハシブトガラス	354
5	スズメ	339
6	シジュウカラ	331
7	アオサギ	307
8	ジョウビタキ	293
9	ハシボソガラス	288
10	カワウ	277

●入賞者について

キャンペーン期間中（11/1～7）に投稿された方のうち、観察対象種のカモ3種（マガモ、コガモ、オナガガモ）をすべて観察し、投稿した方には「サントリー特別賞（賞品：サントリーホールディングス株式会社提供のステンレス製真空タンブラー『フクロウ』）を、7日間毎日チェックリストを投稿した方には「日本野鳥の会賞（賞品：日本野鳥の会オリジナルグッズ・卓上カレンダーと里山の野鳥リングメモ）」をさしあげました。どちらも対象者が10名を超えたため、厳正な抽選の結果、各10名を当選とさせていただきます。



サントリー特別賞のステンレスマグ
（協力：藪内正幸美術館）

●ウェビナー「eBirdで憧れの鳥に会おう」を実施、録画を公開

10月28日に、オンラインセミナー「eBirdで憧れの鳥に会おう」を開催し、eBirdでの野鳥情報の検索方法、観察結果の投稿方法、eBirdと連動する識別アプリMerlinの使い方等を紹介しました。

*録画の視聴はこちら：

<https://www.youtube.com/watch?v=LoHAeGThVEw>

eBird Japan を公開して1年、利用者数は約4,400人となりました。より多くの方から日々のバードウォッチングの記録をeBirdに投稿いただくことで、野鳥観察に役立つデータベースになるとともに、科学研究や保全活動にも活用できるようになります。次回キャンペ

ーンは今年のバードウィーク（2023年5月10～16日）を予定しております。

●eBirdの使い方などをまとめて掲載

eBirdに関する情報をまとめてご覧いただけるよう、当会のホームページにeBirdの概要と使い方、関連するリンクを掲載しております。これから始めたいという方は、こちらをご覧ください。

*当会ホームページ内のeBird Japan 紹介ページはこちら：

<https://www.wbsj.org/activity/conservation/ebird/>

【ご連絡先】

自然保護室 担当 葉山/岡本

TEL：03-5436-2633（月～金 9:30～17:30）

E-mail：ebirdjapan@wbsj.org

（自然保護室/岡本 裕子）

■総務室より

■会員数

1月5日時点の会員数は33,339人で、先月と比べ65人減少しました。

12月の入会・退会者数（表1）をみますと、入会者数は退会者数より93人少なくなっています。

12月1日付の入会者数は131人で、前年同月の入会者数158人と比べ27人減少しました。

また、12月末日付の退会者数は224人で、前年同月の退会者数229人と比べ5人減少しました。

なお、会員の増減は入会者数と退会者数のほかに、会費切れ退会となった後に会費が支払われ会員として復活した人数によって決まります。

表1. 12月の入会・退会者数

	入会者数	退会者数
個人特別会員	2 人	10 人
総合会員（おおぞら会員）	23 人	72 人
本部型会員（青い鳥会員）	16 人	41 人
支部型会員（赤い鳥会員）	58 人	58 人
家族会員	32 人	43 人
合計	131 人	224 人
年度累計	1,484 人	※

※会費切れ退会となった後に会費が支払われ会員として復活する方がいらっしゃるため、退会者数の年度累計は、実際の退会者数とずれた数字となります。

※上記集計は速報値になります。

●都道府県および支部別会員数

野鳥誌贈呈者数を除いた数を掲載します。

表2. 都道府県別の会員数（1月5日時点）

都道府県	会員数	前月比
北海道	1,596 人	-13 人

青森県	222 人	-2 人	根室支部	74 人	0 人
岩手県	340 人	0 人	釧路支部	137 人	-2 人
宮城県	527 人	0 人	十勝支部	170 人	0 人
秋田県	238 人	-2 人	旭川支部	76 人	1 人
山形県	219 人	0 人	滝川支部	40 人	0 人
福島県	521 人	-5 人	道北支部	26 人	0 人
茨城県	829 人	2 人	江別支部	20 人	-2 人
栃木県	758 人	-6 人	札幌支部	291 人	0 人
群馬県	586 人	5 人	小樽支部	56 人	-2 人
埼玉県	1,959 人	-5 人	苫小牧支部	159 人	-2 人
千葉県	1,464 人	-1 人	室蘭支部	124 人	-1 人
東京都	4,606 人	-2 人	道南檜山	66 人	-1 人
神奈川県	3,119 人	1 人	青森県支部	117 人	-1 人
新潟県	353 人	-7 人	弘前支部	111 人	-1 人
富山県	189 人	-5 人	秋田県支部	230 人	0 人
石川県	261 人	-8 人	山形県支部	207 人	-1 人
福井県	215 人	-2 人	宮古支部	68 人	-1 人
山梨県	248 人	0 人	もりおか	155 人	1 人
長野県	815 人	-7 人	北上支部	91 人	0 人
岐阜県	475 人	0 人	宮城県支部	496 人	2 人
静岡県	1,216 人	4 人	ふくしま	133 人	-2 人
愛知県	1,550 人	4 人	郡山支部	144 人	0 人
三重県	435 人	1 人	白河支部	23 人	0 人
滋賀県	298 人	-1 人	会津支部	53 人	-1 人
京都府	800 人	1 人	奥会津連合	5 人	0 人
大阪府	1,884 人	-4 人	いわき支部	87 人	-1 人
兵庫県	1,243 人	-3 人	福島県相双支部	15 人	0 人
奈良県	472 人	-4 人	南相馬	19 人	0 人
和歌山県	209 人	0 人	茨城県	727 人	3 人
鳥取県	222 人	1 人	栃木県支部	751 人	-2 人
島根県	204 人	1 人	群馬	507 人	2 人
岡山県	550 人	0 人	吾妻	45 人	0 人
広島県	573 人	1 人	埼玉	1,454 人	-8 人
山口県	326 人	-2 人	千葉県	895 人	-3 人
徳島県	323 人	2 人	東京	2,581 人	-3 人
香川県	191 人	-1 人	奥多摩支部	742 人	4 人
愛媛県	343 人	3 人	神奈川支部	2,062 人	-5 人
高知県	106 人	0 人	新潟県	269 人	-2 人
福岡県	1,180 人	-5 人	佐渡支部	34 人	0 人
佐賀県	204 人	0 人	富山	173 人	-1 人
長崎県	213 人	2 人	石川	240 人	-5 人
熊本県	353 人	-2 人	福井県	212 人	-2 人
大分県	214 人	-1 人	長野支部	402 人	-4 人
宮崎県	230 人	0 人	軽井沢支部	159 人	1 人
鹿児島県	334 人	-2 人	諏訪支部	230 人	1 人
沖縄県	85 人	0 人	木曾支部	20 人	0 人
海外	9 人	0 人	伊那谷支部	67 人	-1 人
不明	32 人	-3 人	甲府支部	178 人	0 人
全国	33,339 人	-65 人	富士山麓支部	52 人	-2 人
			東富士	59 人	-1 人
			沼津支部	130 人	-2 人
			南富士支部	219 人	0 人
			南伊豆	40 人	-1 人
			静岡支部	319 人	4 人

備考：不明は転居先が不明の会員を示します。

表3. 支部別の会員数（1月5日時点）

支部	会員数	前月比
オホーツク支部	236 人	-1 人

遠江	358 人	-2 人
愛知県支部	1,175 人	6 人
岐阜	455 人	1 人
三重	375 人	1 人
奈良支部	406 人	-2 人
和歌山県支部	215 人	0 人
滋賀	292 人	-1 人
京都支部	740 人	4 人
大阪支部	1,733 人	-6 人
ひょうご	953 人	-3 人
鳥取県支部	236 人	1 人
島根県支部	196 人	1 人
岡山県支部	524 人	3 人
広島県支部	500 人	2 人
山口県支部	299 人	-1 人
香川県支部	151 人	0 人
徳島県支部	346 人	1 人
高知支部	94 人	-1 人
愛媛	314 人	1 人
北九州支部	238 人	-3 人
福岡支部	530 人	0 人
筑豊支部	214 人	0 人
筑後支部	149 人	-1 人
佐賀県支部	252 人	-1 人
長崎県支部	197 人	0 人
熊本県支部	345 人	-2 人
大分県支部	202 人	-2 人
宮崎県支部	220 人	1 人
かごしま県支部	314 人	-2 人
やんばる支部	48 人	0 人
西表支部	46 人	1 人
	28,113 人	-46 人

備考：支部別の会員数の合計は、都道府県別の会員数の合計と異なります。

これは、本部型（青い鳥）会員や支部に所属されていない個人特別会員が支部別の会員数に含まれないためです。

（総務室／三浦 岳志）

■令和 4（2022）年度第 2 回評議員会（臨時） 議事録

- 開催日時 令和 4 年 12 月 2 日（金）
午後 2 時 00 分～午後 3 時 05 分
- 開催場所 当財団会議室
東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル 3 階
- 出席者 （敬称略、五十音順）
評議員総数 7 名
出席評議員 6 名
上田 恵介

鷹司 尚武
（以下、4 名は Web 会議での出席）
上原 治也
黒澤 信道
河野 博子
小林 みどり

出席理事
遠藤 孝一
狩野 清貴
葉山 政治

出席監事
（全員、Web 会議での出席）
曾我 千文
新實 豊

事務局
五十嵐 真（総務室長）
松井 華奈（総務室員）
林山 雅子（総務室員）

4 議長 評議員長 上田 恵介

5 議決事項
第 1 号議案 評議員候補推薦委員会の委員選任
の件

6 議事の経過の要領及びその結果

葉山常務理事が開会を宣言し、その後、上田恵介評議員長から挨拶があった。また、本評議員会は、Web 会議システム（Zoom）を利用し行う旨が述べられ、出席者が一同に会するのと同様に適時・的確な意見表明が互いにできる状態になっていることが確認された。引き続き、葉山常務理事より、本評議員会は定款第 22 条の規定に定める定足数を満たしており、適法に成立している旨、報告があった。

議事録署名人名については、定款第 24 条の規定により、出席した評議員長及びその会議において選任された 1 人となっており、評議員長の他、小林みどり評議員が選任され、本人も承諾し、直ちに議案の審議に入った。

7 議決事項の審議

（1）第 1 号議案 評議員候補推薦委員会の委員選任
の件

上田評議員長より、令和 5 年 6 月、評議員の任期が満了となる旨の説明がされ、「評議員候補推薦委員会規程」第 3 条に基づき、評議員候補推薦委員会の委員について、評議員からの 1 名、事務局からの 1 名、外部委員 2 名を、評議員会において選任する旨の説明がされた。

五十嵐真総務室長より、評議員候補推薦委員会の委員候補について、資料に基づき説明がされた。

上田評議員長より、賛否を諮ったところ、出席評議員全員がこれを承認した。

委員（事務局） 大畑 孝二

外部委員 尾崎 清明
外部委員 渡辺 綱男

なお、「評議員候補推薦委員会規程」第3条に基づき、評議員からの委員は、互選により岩切久評議員が委員に選任され、上田評議員長は委員長に就任する旨が確認された。また、監事からの委員は互選により曾我千文監事が選任された旨の報告がされた。

8 報告事項

(1) 令和4(2022)年度補正予算の件

遠藤理事長より、経常収益は、当初予算に比べ5,536千円減の1,078,953千円、また経常費用は、当初予算に比べ6,150千円減の1,081,369千円、この結果、当期一般正味財産増減額は、当初予算に比べ919千円悪化し、8,127千円の減額となり、期末残高は、972,306千円となった。指定正味財産増減額は、当初予算に比べ8,180千円悪化し55,890千円の減額となった。その結果、期末残高は、1,055,520千円となり、両者を合わせた正味財産期末残高は、2,027,826千円となる2022年度補正予算について、資料に基づき説明がされた。

上原治也評議員より、I一般正味財産増減の部2)経常収益(1)事業費のウェブサイト運営費の金額がゼロである理由について質問がされ、五十嵐総務室長より、かつて使用していた科目であり、現在は委託費や情報システム管理費等の科目で計上しているためであると説明がされた。

河野博子評議員より、2022年度(第12期)補正予算書 増減額の大きな科目のI一般正味財産増減の部2)経常収益(6)物品販売事業収益の一般卸販売20,800千円減の要因について、令和4年度第2回理事会(9月29日開催)において、長靴の卸販売が減少傾向のためであると説明がされていることについて質問がされ、五十嵐総務室長より、補正予算額は当初予算より大きく減額してはいるが、令和3年度決算額412,471千円と同水準であり、今年度決算見込では、さらに堅調な動きがみられ、長靴の売上は復調していると説明がされた。また、黒澤信道評議員より、物品販売事業収益と同様に商品仕入費用も減額となっており、在庫管理が適切に行われているということなのではないかと意見が述べられ、遠藤理事長より、毎月、執行役員、普及室(販売部門担当)、総務室(経理担当)で、物販事業の経常利益率、在庫回転率等を基に、着実に収益を上げられるように検討を重ねており、成果を上げていると説明がされた。

(2) 令和5(2023)年度事業計画及び予算の件

狩野副理事長より、事業計画については、ビジョン2030に基づいた展開とし、公益事業部門とそれを支えるほかの各部門との連携の強化を図り、相互の連携を高め各事業の進展を図る、特に、共生推進企画室と広報室を中心に各室との連携を強化し、事業や活動の成果を基に会員や支援者、寄付等の増加に結び付ける「支援拡大サイクル」の構築を進める内容であると資料に基づき説明がされた。また、予算については、資金収支ベースで収支均衡を目指し、会全体の会費、寄付、受託事

業等の収入及び収益事業の収入額と利用可能な特定預金等の範囲内での支出とする、また、特定預金の取り崩しは計画的に行う、加えて、四大財源(会費、寄付・特定預金、受託事業、販売事業)の収支改善と利益率向上を進めるとともに、業務の効率化・省力化を進め、さらに当会の事業全体を見直して選択と集中を行う内容である旨、資料に基づき説明がされた。

小林みどり評議員より、2事業計画(3)戦略的な広報の実施の詳細について質問がされ、遠藤理事長より、外部専門家を招いてブランド戦略等の構築を図っていく、詳細が確定した時点で共有させていただくと説明がされた。

小林評議員より、海洋プラスチックごみ削減への取り組みの進捗について質問がされ、葉山常務理事より、使い捨てのプラスチックの削減や持続可能な社会の実現について普及啓発するため、セミナーの開催、教材の作成、キャンペーン等を継続、及び、実効性のある法制度ができるよう、関係団体とともに政策提言活動を推進、この他、プラスチックによる海鳥や海洋生態系への影響を把握するための調査計画を立て、大学との共同研究の準備を進めていると説明がされた。

黒澤評議員より、海洋プラスチックごみ削減について、当会連携団体の取り組み及び探鳥会等にて把握している現状を取りまとめはどうかと意見が出され、遠藤理事長より、海洋プラスチックごみ削減に関する活動は、連携団体も含めて会全体で取り組むことが大切であり、検討したいと回答がされ、上田評議員長より、日本全国の連携団体の活動を取り上げて、広報することは、当会の活動を一般社会に知らせるきっかけになるのではないかと意見が述べられた。

小林評議員より、海洋プラスチックごみ削減について、ごみ収集場所のカラス被害はプラスチックごみの海洋流出に大きく関係しているのではないかと、この対策等についても取り組んではどうかと意見が出され、遠藤理事長より、そのような視点はなかったため担当に確認したうえで、必要があれば検討する旨の説明がされた。

(3) 令和4(2022)年度第2回理事会の結果の件

遠藤理事長より、令和4年度第2回理事会の結果について、資料に基づき報告がされた。

上田評議員長より、第4号議案 野鳥保護区(タンチョウ繁殖地)購入の件の目的について質問がされ、葉山常務理事より、タンチョウを守るとともに、湿地性野鳥や他の生物保護にとって重要である、また、今回購入の野鳥保護区は、当会野鳥保護区「渡邊野鳥保護区別寒牛湿原」に隣接しており連続性を確保できる、生物多様性に効果が高いと判断したためであると説明がされた。なお、当会保護区購入事業については、緊急性が高いシマフクロウに係る保護区の購入を中心に進めると追加説明がされた。

議長は以上をもって全部の議題を終了した旨を述べ、午後3時05分閉会を宣言し解散した。

以上の議事を明確にするため、この議事録を作成し、議長及び議事録署名人がこれに記名押印する。

令和4年12月5日

公益財団法人日本野鳥の会臨時評議員会

議長 上田 恵介
議事録署名人 小林 みどり

以上

(総務室/林山 雅子)

■令和4(2022)年度第3回理事会(定例)議事録

- 開催日時 令和4(2022)年12月20日(火)
午後3時08分～午後5時12分
- 開催場所 当財団会議室
東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル3階
- 出席者 理事現在数 6名
出席理事 6名(五十音順)
遠藤 孝一
狩野 清貴
鶴見 みや古
葉山 政治
見田 元
(以下の理事は、Web会議システムでの出席)
笠原 逸子

出席監事
曾我 千文
(以下の監事は、Web会議システムでの出席)
新實 豊

傍聴
(以下は、Web会議システムでの出席)
瀬古 智貴(職員労働組合委員長)

事務局
五十嵐 真(総務室長)
松井 華奈(総務室員)
林山 雅子(総務室員)
(以下、6名はWeb会議システムでの出席)
田尻 浩伸(自然保護室長
兼施設運営支援室長代理)
富岡 辰先(普及室長)
大畑 孝二(施設運営支援室長)
柵 さち子(広報室長)
景山 誠(共生推進企画室長)
渡邊 順子(総務室長代理)
- 議長 理事長 遠藤 孝一
- 議決事項

- 第1号議案 令和5(2023)年度の会誌『野鳥』
発行回数の件
- 第2号議案 ご遺贈の資金使途の件
- 第3号議案 参与再任の件

6 議事の経過の要領及びその結果

理事会開催にあたり、冒頭、遠藤孝一理事長から挨拶があった。また、本理事会は、Web会議システム(Zoom)を利用し行う旨が述べられ、出席者が一同に会するのと同様に適時・的確な意見表明が互いにできる状態になっていることが確認された。葉山政治常務理事が開会を宣言し、本理事会は定款第42条の規定に定める定足数を満たしており、適法に成立している旨の報告がされた。

また、職員労働組合から1名の傍聴者が出席している旨の報告がされた。

なお、議事録署名人については、定款第44条に基づき、出席した代表理事及び監事とされており、遠藤理事長、狩野清貴副理事長、曾我千文監事及び新實豊監事が署名人となることを確認した後、次の議案の審議に入った。

(1) 第1号議案 令和5(2023)年度の会誌『野鳥』 発行回数の件

柵さち子広報室長より、コロナ禍の財政状況、会費に占める発行費用の上昇、及び、最近の物価上昇への対策として、令和5年度以降の会誌『野鳥』の発行回数を今年度同様に、年6回とする旨の説明がされた。また、令和5年1・2月号及び3・4月号における本誌及び告知文(同封)にて会員へ状況説明をして理解を求める旨の説明がされた。

見田元理事より、会員への告知について、資料に記載されている理由を全て説明する必要はないのではないかという意見が出され、遠藤理事長より、必要以上の説明はしないが丁寧な対応をする旨の回答がされた。

笠原逸子理事より、野鳥誌の内容について、引き続き、充実させるように工夫してほしい、また、会員の声を拾うコーナーを入れてもいいのではないかという意見が出され、遠藤理事長より、広報室で検討する旨の回答がされた。

審議を経て、議長がこの賛否を諮ったところ、全員が異議なくこれを承認した。

(2) 第2号議案 ご遺贈の資金使途の件

五十嵐真総務室より、原田信子氏のご遺贈の資金使途について、遺言公正証書のご意思に基づき、資料のとおり、「野鳥と生物多様性を保全する事業」とし、名称は「原田氏生物多様性保全特定預金」とする旨の説明がされ、田尻浩伸自然保護室長より、主に海洋プラスチック関連事業等に充当する予定であると追加説明がされた。

審議を経て、議長がこの賛否を諮ったところ、全員が異議なくこれを承認した。

(3) 第3号議案 参与再任の件

葉山常務理事より、本年12月31日に委嘱期限を迎える金井裕参与について、引き続き参与として、鳥インフルエンザ及び二国間条約やフライウ

エイ等の国際会議に関する情報収集などを委嘱したい旨、また、委嘱期間は2023年1月1日から2023年12月31日であると追加説明がされた。

審議を経て、議長がこの賛否を諮ったところ、全員が異議なくこれを承認した。

7 報告事項

(1) 令和4(2022)年度事業進捗の件

各室より、担当事業の進捗状況について、概ね計画通りに推移している旨、資料に基づき報告がされた。

曾我監事より、9月に実施した当会初のクラウドファンディング(「天然記念物カヌムリウミスズメと海を守る」)は、今年度の事業計画の方針「共生推進企画室を中心に各室が連携を強化し、当会のさまざまな成果を会員や支援者、寄付等の増加に結び付ける「支援拡大サイクル」構築に確実につなげていく」取組みであり、非常に評価できると意見が出され、景山誠共生推進企画室長より、自然保護室には内容等の打合せでの協力、広報室、普及室、施設運営支援室には告知での協力を得てチャレンジした結果、新規支援者は3分の1程度だったが、しばらくアクセスのなかった既存支援者の掘り起し効果があったこと、今後の実施については効果等の十分な検討が必要であると説明がされた。また、田尻浩伸自然保護室長より、当会の自然保護事業の成果を直接的に寄付につなげることができ、大きな気づきとなったと説明がされ、柵広報室長より、今回の広報は、ホームページ、フェイスブック、ツイッター等で対応したが、次回以降は広報室のメディアを活用し綿密に広報計画を立てたいと説明がされ、富岡辰先普及室長より、普及室と関わりのある支援者10万件の名簿を活用し告知協力をした、今後はこの結果を精査すると説明がされ、大畑孝二施設運営支援室長より、三宅村長の応援メッセージ依頼等で関わることであったと説明がされた。

見田理事より、5月開催のティーサロンコンサート『鴨長明、その人と「方丈記」』が野鳥を題材としなかったことについて質問がされ、景山共生推進企画室長より、「方丈記」に描かれた地震、豪雨、洪水、土石流などの天変地異の中に暮らした時代は、自然災害に見舞われる機会が増加した現在に酷似しており、コンサートの題材としたと説明がされ、野鳥を題材としなかったが、ほぼ満席であったと回答がされた。

見田理事より、自然保護事業・絶滅のおそれのある種の対象種の選定方法について質問がされ、田尻自然保護室長より、緊急に保護を必要とする種であり、他団体が着手していない種を候補として検討し選定していると説明がされた。また、絶滅のおそれのある種のカテゴリーが好転した場合は、タンチョウのように活動内容を変更すると説明がされた。

曾我監事より、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区に関して国指定鳥獣保護区管理員の任命について質問がされ、葉山常務理事より、ウトナイ湖サンクチュアリの歴代チーフが任命されており、環境省や行政に問題点等を意見することができる等のメリットがあると説明がされた。

笠原理事より、豊田市自然観察の森の「ジュニア

森レンジャー」の卒業生について質問がされ、大畑施設運営支援室長より、卒業後はボランティアとして活動している人もおり、今後も活動を継続し、レンジャーへの窓口としても進めていきたいと説明がされた。

笠原理事より、広報ツールとして、若者層に人気のSNS「インスタグラム」を活用してはどうかと意見が出され、柵広報室長より検討する旨の回答がされた。

(2) 令和4(2022)年度決算見込みの件

五十嵐総務室長より、公益事業会計の当期経常増減額は、2,314千円の減額、物品販売事業の収益事業等会計の当期経常増減額は、19,959千円の増額、法人全体として経常収益は、補正予算比52,063千円増の1,131,016千円、経常費用は、補正予算比10,256千円増の1,091,625千円、税引後の当期一般正味財産増減額は、補正予算比41,794千円増の33,667千円の増額、また当期指定正味財産増減額は、34,703千円の減額を見込む2022年度決算見込について、資料に基づき報告がされた。また、資金収支ベースにおいて、補正予算に引き続き、決算見込においても収支均衡目標を達成しているとの報告がされた。

見田理事より、主に共生推進企画室の努力が大口寄付に繋がっている、また、普及室販売出版グループの在庫管理や利益率維持といった地道な活動が実を結んでいる等、職員のご苦労が感じられる決算見込であると感想が述べられた。

笠原理事より、黒字への転換は職員の並々ならぬ努力の結果である、特別賞与等の検討をしてはどうかと意見が出され、遠藤理事長より、職員への還元については、そのモチベーション維持のためにも必要と認識しており、時期は決算確定後を想定していると説明がされた。

議長は以上をもって全部の議題を終了した旨を述べ、午後5時12分閉会を宣言し解散した。

上記の議事を明らかにするために議事録を作成し、遠藤理事長、狩野副理事長及び出席監事の名において記名、押印する。

令和4(2022)年12月22日

公益財団法人日本野鳥の会

議長	代表理事	遠藤	孝一
	代表理事	狩野	清貴
	監事	曾我	千文
	監事	新實	豊

以上

(総務室/林山 雅子)

◆支部ネット担当より

いつも支部ネット通信をご愛読いただきありがとうございます。
ございます。

年始に近所の都立公園の池のほとりで、カワウが複数繁殖しているのを観察できました。人の行き来が結構激しいエリアなのですが、親鳥たちはあまり気にせずヒナへ懸命に給餌していました。

新しい年が明けても、新型コロナやヨーロッパでの戦争、鳥インフルエンザの流行と、落ち着かない状況ですが、鳥たちは変わらず過ごしているようです。

2023 年もどうぞよろしく願いいたします。

日本野鳥の会

支部ネット通信

2023 年 1 月号・通巻 252 号

◆発行

公益財団法人日本野鳥の会 2023 年 1 月 27 日

◆担当

総務室 総務グループ

五十嵐真/林山雅子/松井華奈/萩原洋平/原元奈津子

〒141-0031

東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

TEL : 03-5436-2620

FAX : 03-5436-2635

E-mail : sibu-net@wbsj.org
